

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201574		
法人名	株式会社フロンティア		
事業所名	グループホームウェルスタイル拓北 1階		
所在地	札幌市北区拓北8条3丁目1-8		
自己評価作成日	2024.3.15	評価結果市町村受理日	2024.4.15

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0190201574-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和6年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々としたリビングフロアが特徴で庭には花植えや家庭菜園ができる畑があります。毎日行う朝の会では日付けの確認や脳トレ等を行いながら利用者同士、職員とのコミュニケーションの時間を大切にしています。季節感を感じて頂ける様、その時期に合った飾りやその方の力を見極めながら共に行う制作活動にも力を入れています。散歩や外出レク、地域への買い物も行っており楽しみを持って生活して頂く事で笑顔で過ごせる環境と健康維持にも努めています。利用者様に寄り添う気持ちと職員一人一人の笑顔を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームウェルスタイル拓北」はJR拓北駅やバス停から近く、静かな住宅地にある2ユニットの事業所である。駅前のコンビニエンスストアや近くのスーパーマーケットで買い物を楽しめる環境にある。2階建ての屋内は明るく広々としている。法人運営の福祉用具・住宅改修を活用し、安全な手すりや色を使い分かりやすい表示で移動への工夫がしてある。開設して5年が経過する中で感染症の流行があり外部者との関係づくりが難しい状況にあるが、感染予防をしながら散歩や買い物、外食など可能な限り外出し、利用者の意向を聞き「百合が原公園」や「さとらんど」の外出行事も行っている。事業所内ではランチやおやつレクの企画に利用者も参加し楽しみになっている。運営推進会議は家族の参加率が高く、会議での意見に沿って動画スライドで普段の暮らしを紹介したり、車いすセミナーを設けて操作を学び、有意義な会議になっている。ケアマネジメントでは全職員が参加して介護計画を見直し個別ケアを丁寧にしている。管理者は家族の意向を共有できるように記録用紙の変更や書類を整備し、また業務分担で職員が意欲的に働くことができる環境づくりを熱心に進めている。法人研修や内部研修で職員は学びを深めて利用者の安心した暮らしを支え、理念を意識しながら利用者に寄り添い笑顔で明るく対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開かれた事業所としての理念をスタッフルームに掲示し、管理者と職員はつねに理念を意識し実践に繋げている。	企業理念に沿って事業所独自の理念を作成し、「人と地域に寄り添い」という文言が入っている。玄関や職員の目につきやすい場所に掲示し、会議などで理念の内容を説明している。職員は理念の意味を理解し意識してケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩や買物等で挨拶を交わすなどして地域との繋がりを意識している。パン屋の定期訪問販売でも交流している。	感染症流行の影響から、地域行事への参加やボランティアなどの来訪は難しい状況にある。利用者が住民と直接に交流する機会はなく、買い物の際に触れ合っている。回覧板を通して町内会情報を収集する機会が少ないように見受けられる。	地域で共同生活を営む利用者の暮らしを紹介したり、町内会の情報を得るなど、地域に馴染んで暮らす関係づくりに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ5類となっているが、地域の方に発信する機会は持っていない。今後は認知症への理解を深めて頂く事に努めていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ5類となり対面での運営推進会議を実施できている。会議の中ではご家族様にご意見・要望を頂きサービス向上に繋げている。	運営推進会議は町内会、地域包括支援センター、家族のほか、法人他グループホームは見学で参加しテーマに沿って意見を交換している。家族の参加率は高いが、地域包括支援センター、町内会の欠席が続く場合は協力をお願いを考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と同頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の入居状況報告や不明点がある際は電話連絡を行いアドバイスを頂いている。	事業所状況の報告は郵送で行い、書類手続きで迷う時は電話で担当者に相談しアドバイスを得ている。感染症について市や保健所の担当者に対応について、その都度連絡を取り合い連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修で身体拘束の理解を深めている。日々の生活の中でも身体拘束に当たらないかを職員間でつねに意識しケアを行っている。	基本的には全職員の参加で3か月ごとに委員会を開催し、身体拘束のグレーゾーンの対応を話し合い拘束は行っていない。欠席の時は会議録や資料を渡している。全体会議で年2回研修を行い、具体的な禁止行為も確認している。今後は分かりやすい書類整備を考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行っている。見過ごす事のないよう努め意見交換や職員間の認識確認を行っている。		

グループホーム ウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を行っている。研修では成年後見制度の勉強を行う機会があり、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	安心して入居頂ける様、入居前からに密に連絡を取り不明点や疑問点の解決、説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来館時や電話等で意見を伺ったりケアプラン立案時に要望等を伺っている。	家族ごとの記録用紙に変更を加え、家族の意見に職員が伝えた内容を記録し、管理者、職員は意向を共有している。ケアプランの意向は参照を記し、介護記録に記載している。毎月送っている「拓北通信」にメッセージ欄も考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行っている。全体会議でも意見を聞く機会とし反映させている。	全体会議の中で研修や各委員会からの議題に沿って意見を交換している。その後ユニット会議でケアや業務などを確認している。管理者は個別面談で職員の意向を聞きながら働き易い環境に配慮し、各職員は委員や担当で業務を分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を参考にしたり定期的に就業環境を振りかえり改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修に参加し勉強や自身のケアの振り返りを行い、個人個人のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所のグループホームとの交流の機会がある。合同の行事も行っており意見交換ができる環境にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談での本人との会話や生活環境等から安心確保出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに連絡を取り、要望や不安点の聞き取りを行っている。思いを気軽に伝える事ができる関係性作りを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	課題の優先順位を明確にし、サービスを提供できる様、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る出来ない事やご本人のやりたい事を見極め職員と一緒にいたり、本人様が自発的に行ってくれている場面も多くある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と疎遠にならない様、面会の打診やご本人の近況報告を管理者・計画作成で行い絆が途切れない様、支援を行なっている。また、病院受診の同行等は可能な限りご家族様に行なって頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り馴染みの人や場所との関係を継続できる様、外出ができる体制をとっている。電話や手紙の取次を行っている。	近所に住んでいた方が来訪している。家族と外食を楽しみ、娘宅に泊り温泉に行った利用者もいる。事業所近くにある馴染みのスーパーマーケットなどで買い物をしたり、外出行事に利用者の意向を取り入れ、百合が原公園やさくらんどに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が上手くいく様に座席の配置を考えたり、孤立しない様、職員が会話の橋渡しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も近くに来た際は立ち寄って頂きたい事を声をかけし、関係性を断ち切らない様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に直接伺ったり日頃のご様子と合わせ思いや意向を把握できる様努めている。	会話や普段の様子から意向を把握し、外食レクで利用者アンケートを行うこともある。アセスメント表に嗜好や趣味などの情報を具体的に記録し、現在の意向を計画につなげたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方のバックグラウンドを大切に馴染みの生活や環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の過ごし方や心や体調を把握しながらの支援に繋がるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の話を聞いたりカンファレンス等での意見交換、現状把握で介護計画の作成をしている。	入居後は3か月後に、安定後は6か月ごとに計画を見直している。カンファレンスで意見交換後に、本人、家族の現在の意向をもとに介護計画を作成している。記録はタブレット端末を使用し、実施といつとも違う変化も記載し見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットでの支援記録や実践結果、申し送り事項をすぐに見る事ができ、情報共有出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズやその時の状況に合わせたサービスを提供し取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出レクの計画や地域ボランティアに来訪してもらいながら暮らしを楽しむ事ができる様、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望を聞き取りかかりつけ医、往診医を選定している。	月2回の訪問診療を受けている。専門的な他科受診は家族が同行し、必要な時は書面で情報を渡している。家族の事情で事業所でも対応することもある。訪問と受診の記録類を別ファイルにし、個別に綴り経過を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り用紙や夜勤明けからの申し送りを確認してから対応にあたっている。 職員が気づきを伝える事で、適切な受診や看護に繋げ協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院対応が発生した場合は地域医療連携室と蜜に連絡をとり面会可能な病院には直接来訪し医療担当者と情報のやりとりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点では看取りを行う体制が整っていない為、医療機関に繋げている。今後は看取りも視野に入れ、研修や方針の話し合い等を行っていきたい。	利用開始時に文書をもとに事業所の対応を説明し、継続的な医療的行為は難しいことも説明し同意を得ている。主治医の判断で状態が変わった時は家族、事業所と話し合い、医療機関や介護施設を紹介し安心して移行できるよう対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応時のフローチャートを作成し、定期的に訓練、初動対応の実践力が身に着くよう研修を行い備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。 地域の理解が少なく協力体制は構築できていないが、今後は、力を注いでいきたい。	設備会社立ち会いで夜間を想定し、火災、地震による火災の訓練を実施している。消防署とはネットを通して申し込み、実施結果の報告となっている。各災害時のケア別対応は話し合っており、写真も入れて支援マニュアル作成を考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の性格や生活歴、職業歴等を理解把握し配慮した言葉かけを行っている。	法人の社内研修で全職員が毎年接遇の研修を受けている。日常的に言葉かけの内容に配慮し、カンファレンスで振り返る機会をもっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の気持ちを汲み取れる様に日頃からのコミュニケーションを大切に、自己決定が難しい入居者様には選択を提案したりと自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者対応を優先とする意識を職員間で持ち業務等に偏らない様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選んだり、お化粧をしたり支援をしている。		

グループホーム ウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛付を日々一緒に行っている。手作りおやつでは利用者中心で準備や調理を行っている。	系列事業所より副食の提供を受けている。行事の時はメニュー変更や特別メニューとしたり、手作りおやつのを週3回実施し楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量を記録している。進まず接種が足りない場合は好みの物を提供し、工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、義歯洗浄を行っている。利用者によっては訪問歯科の定期往診を受け口腔内のチェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方のリズムに合わせた声掛けや定期的な誘導を行い、トイレでの排泄が出来る様、支援している。	タブレットに排泄表を記録し排泄パターンを把握しトイレでの排泄を大切にしている。羞恥心に配慮し声かけ誘導している。夜間は睡眠状況を観察しながらトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の促しや、毎日の運動で便秘にならない様取り組んでいる。個人の希望により定期で乳製品を摂取したりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の入浴日は決まっているが、その時の体調や気持ちを汲み取り、曜日や時間を変更する等して対応している。	日曜日以外の午前の時間帯で、各利用者が週2回程度入浴している。リフトが設置されており、必要時利用できる。希望があれば同性介助とし、一人ずつ湯の入れ替えを行い、好みの温度に調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りスキャンを使用し、覚醒のタイミングを見てケアを行ったり質の良い眠りが取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の居宅療養管理指導の元、副作用、症状や用量の変化を理解・確認できる環境にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の残存能力を見極め、役割をもった生活を送る事ができる様支援している。		

グループホーム ウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出レクは積極的に行っており、利用者にアンケートを取る等行い希望を把握し実行している。	近所の散歩を行い、コンビニエンスストアやスーパーマーケットに買い物に出かけることもある。裏庭や2階のベランダに出て、コーヒーを飲むなど外気に触れる機会を作っている。利用者の希望を聞きながら、年間行事を決め感染予防に注意しながら外出レクを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金はGH金庫にて保管預かりしているが訪問販売等が来訪した場合は本人の希望により希望品の購入ができる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使用し知人・家族との会話や手紙・年賀状などのやり取りが出来る様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が分かる装飾飾りや歌を歌ったりしながら工夫をしている。 日中、夜間で照明の明るさを工夫したり、日の光を取り込んだりしている。 季節により温度が快適でなくなる共用部には、暖房増設し、適宜使用している。	広々とした居間と食堂が中央にあり、両側に居室があり、居室から出るとすぐ、ゆったりと過ごせるようになっている。光触媒の空気清浄機や加湿器があり清潔で快適な環境を維持している。各ユニットに2か所のトイレがあり大きな表示とドアの色を工夫しわかりやすくなっている。壁には季節感のある手作りの作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファ・カウンター等、思い思いの場所で過ごせる様支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や家族の写真、自作の作品等を自由に飾り、安心して暮らせる様に工夫をしている。 怪我等に繋がる可能性がある物は家族と相談しながらクッション材などで保護し安全にも配慮している。	介護用のベッドや手すり等の福祉用具が利用者の状況に合わせて無償で提供されている。テーブルや椅子など馴染みのある家具を持ち込み、趣味の作品を置くなど居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂の手すりは認識しやすくオレンジ色を多く使用しておりトイレには大きな目印を付けて分かり易く配慮し自立した生活が送れるよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201574		
法人名	株式会社フロンティア		
事業所名	グループホームウェルスタイル拓北 2階		
所在地	札幌市北区拓北8条3丁目1-8		
自己評価作成日	2024.3.15	評価結果市町村受理日	2024.4.15

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvovsoCd=0190201574-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々としたリビングフロアが特徴で庭には花植えや家庭菜園ができる畑があります。毎日行う朝の会では日付けの確認や脳トレ等を行いながら利用者同士、職員とのコミュニケーションの時間を大切にしています。季節感を感じて頂ける様、その時期に合った飾りやその方の力を見極めながら共に行う制作活動にも力を入れています。散歩や外出レク、地域への買い物も行っており楽しみを持って生活して頂く事で笑顔で過ごせる環境と健康維持にも努めています。利用者様に寄り添う気持ちと職員一人一人の笑顔を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 グループホームウェルスタイル拓北 1階	理念を意識する事でより良いグループホームになる様心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩や買物等で挨拶を交わすなどして地域との繋がりを意識している。 地域のパン屋の定期訪問販売でも交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ5類となっているが、地域の方に発信する機会は持っていない。 理念にもある様に開かれた事業所をめざしていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での運営推進会議を行っている。 ご家族様にご意見・要望を頂き取り入れている。 一緒に研修に参加する等してサービス向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の入居状況報告や不明点の確認や相談、助言を受けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会からの研修や社内研修を定期的に行っており身体拘束の無いケアを行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を重ね、虐待防止に取り組んでいる。 見過ごす事の無いよう注意を払っている。		

グループホーム ウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を行っている。 成年後見制度の勉強を行う機会あった。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には疑問、不安点の聞き取り、すり合わせを何度も行っている。利用者、家族共に安心した入居に繋がる様心掛けている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の生活の中で利用者の意見を聞き取り入れたりご家族様との会議の場を設け、運営に反映させている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やカンファレンスで意見を募ったり定期的な個人面談を行い反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課をもとに定期的に改善が行われている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修に参加し、理解を深めている。日々生活の中でもケア方法のすり合わせを行い、より良いケアを心掛けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所のグループホームとの交流の機会と意見交換の機会がある。 また、退去者の現施設との交流も行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	密なコミュニケーションを心掛けご本人を知る事からの関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や不安点の聞き取りを行っている。言いにくい事には配慮しながら、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を本人と家族に確認し支援を行う様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の役割を持った生活をして頂く事で一方的な関係性にならない様な関係に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にはいつでも会いに来て頂ける様お伝えしている。 時には家族様からアドバイスを頂き本人を共に支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の場合や疎遠になっている方もいるが馴染みの関係が途切れない様連絡を行ったりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様、職員が間に入る事で利用者同士が助け合いを行える様に意識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も必要な情報を提供している。 困りごとがあった場合や 近くに来た際は立ち寄って頂きたい事を声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方に寄り添い、気持ちを汲み取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日々のコミュニケーションからヒントを得てこれまでの生活歴から大きな環境変化が起きないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の自己決定の元、1日を過ごせるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	多職種で連携し、課題の抽出を行いより良いケアが提供できる様、計画を立案している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご家族様との会話内容の記録を参考にしたりタブレットでの支援記録と申し送りをチェックする事で情報共有と見直しができる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念を持たない柔軟な対応とその時に合わせたサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣への買い物や外出レクを行いながら生活の楽しみが持てるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を継続・変更・往診への切り替え等、本人・家族の希望にて選択できる体制と支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り用紙を活用したり小さな変化にも気づきが持てるよう個々の利用者の様子を見ている。看護職員に報告相談し、すぐに受診に繋がれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院対応が発生した場合は地域医療連携室と蜜に連絡をとったり病院に直接来訪し、医療担当者とのやりとりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点では看取りを行う体制が整っていないが、医療機関に繋がっているが、体調急変時に備えた研修を行っていききたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応時のフローチャートを作成している。定期的な訓練、初動対応の実践力が身に着くような研修を頻回に行っていききたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。地域の理解が少なく協力体制は構築できていないが、今後は、力を注いでいききたい。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーへの配慮が必要な場合は場所を変えたりしながら人格尊重に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら表す事ができない方には選択ができる様な声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者対応を優先とする意識を職員間で持ち業務等に偏らない様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選んだり、外出時にはお化粧品やマニキュアをしたり普段とは違うおしゃれを楽しむ事ができる様支援している。		

グループホーム ウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味噌汁作りや食事の盛付を一緒に行っている。手作りおやつでは利用者に助けてもらう場面も多く一緒に活動を行っている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表の活用や個人に合わせた食事量や形態を見極め支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立・介助にて口腔ケアを行い、義歯洗浄を行っている。利用者により訪問歯科の定期往診を受け口腔内のチェックを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握し、利用者のほとんどがトイレでの排泄が出来る様な支援している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の促しや、毎日の運動で便秘にならない様取り組んでいる。個人の希望により定期で乳製品を摂取したりしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、一人一人お湯を入れ替え気持ち良く入浴できる環境を作っている。体調や気持ちを汲み取り、曜日や時間を変更し柔軟に対応している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立の方は自分のペースでの静養を行えている。本人の状況を見て静養の声掛けを行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認したり薬局指導の元、副作用、症状や用量の変化を理解・確認できる環境にある。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の残存能力を見極め、役割をもった生活を送る事ができる様支援している。			

グループホーム ウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を感じて頂ける様に散歩や外出レク、地域への買い物を積極的に行っている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金はGH金庫にて保管預かりしているが訪問販売等が来訪した場合は本人の希望により希望品の購入ができる様支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使用し知人・家族との会話や手紙・年賀状などのやり取りが出来る。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るくカーテンを開けたり認識しやすい色やマークで自立した生活が送れるよう工夫している。 フロアには空気清浄機器2台を設置し、快適に過ごせるよう配慮している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・カウンター・テーブル・EVホール等、一人になれる空間の工夫をしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた物や本人が使いやすい物を設置したり家族とともに考え安全に配慮しながら心地よい生活ができる工夫をおこなっている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ドアの表札を大きく目立つ様にしたり導線を大きく取る事で自立した安全な生活が送れるよう環境整備を行っている。			

目標達成計画

事業所名 グループホームウェルスタイル拓北

作成日：令和 6年 4月 12日

市町村受理日：令和 6年 4月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域で共同生活を営む利用者の暮らしを紹介したり町内会の情報を得るなど、地域になじんで暮らす関係づくりに期待したい。	町内会に加入し、地域の方々との面識を持つ事、町内の行事に参加し、理念にある開かれたグループホームとして、介護福祉の発信や交流会を行い地域に溶け込む。	外部評価実施後町内会の加入は済ませている。町内の集まりに参加し、地域の方々が気軽に立ち寄れるグループホームを目指す。回覧板に通信等や交流のお知らせを挟み当グループホームを知って頂く。	1か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。